

## 新しい現実とマネジメント

## 1. 研究会に入った経緯

森岡先生とのご縁により、今ここに参加させていただいております。森岡先生とのご縁は、森岡先生が講師を務められている日経 BP 社の 2012 年の IT 系養成講座に参加したことから始まりました。森岡先生が講師を務められている他の講座にも立て続けに参加し、更に勉強重ねました。その後、渋谷の勤労福祉会館で開催されていた「ドラッカー「マネジメント」研究会」へお誘い頂き、2017 年にドラッカー学会へ入会のお話を頂き、正式に「ドラッカー「マネジメント」研究会」へ入会となりました。

## 2. 森岡先生の講座での学び

森岡先生からの学びは多様にあります。2012 年の講座受講した際に印象的だったのが「上司を馬鹿にして（見下して）はいけない。上司を驚かせてはいけない」（注 1）という言葉でした。当時の私は、上司は「いろいろ言っ、働かないもの」という考えを持っていましたので、よくわかりませんでした。（当時の上司がそうただけかもしれません）。そこで森岡先生に対し「本当にダメですか。こういう現実なのですが、こういう状態なのですが。」など、色々と背景などを説明し、何度も質問しましたが、一貫して「ダメ。それやっているうちはダメ」と一蹴。その後、「マネージャーの 5 つの仕事 (OOMMD)」「マネジメント・レター」（注 2）について何度も学び、なるほどと腹落ち。上司を馬鹿にしてもいいことはないし、マネジメントとしては「部下は上司に貢献する」「上司は部下を支援する」という関係が重要で、これが成り立ってないとダメなのだとも認識し、「上司を馬鹿にしてはいけない」の意味が分かるようになりました。その後は森岡先生から学んだことを、森岡先生の受け売りのまま実践しています。

## 3. 最近の現実とマネジメント実践

私の今の生業は、スマートフォン・モダン PC などを法人向けにキッティングする事業の設計業務を主としています。元々、法人向けソリューション事業、サーバ構築・ネットワーク構築、システム構築などを担当していたので IT には明るい方です。ただ、スマートデバイスは、皆さまご存じの通り、ライフサイクルが非常に短く、年に何回も新機種、新 OS、新サービスが出てきます。更に既存サービスもどんどんバージョンアップしていくため、追従が非常に大変な環境です。

実際に「端末を触り倒す」「管理ソリューションの管理画面を触って端末との連動を試す」など設計を行っていくのは非常に困難です。このような環境なのですが、世の中はリモートワーク全盛。私のいる組織も、リモートワーク、フリーアドレス化の波が来て、12 月から出社率が下がりました。私は毎日出社しているのですが、みな来ません。

この状況で、どのように人材を育てるかが課題となっています。いい人はなかなかいないので育てなければなりません。

- ・教育を含め、部下をマネジメントできるリーダー
- ・営業とお客様都のところに行って（Web 会議でも）要件をまとめられる技術者
- ・ベンダーマネジメントができる技術者

最近、3 名の新人（26、30、50）が入りました。日々自分の案件をこなしつつ、リモートワークで教育しています。案件を一緒対応しつつ、少しずつ渡して一人前に育てている最中です。一人前の基準は「依頼に対して一人で見積もり対応ができる」ところとしています。一人で案件対応できるようになるには最低でも 1 年程度はかかる見込みです。OOMMD 含めマネジメント研究会で学んだことを実践し成果につなげていきたいと思っております。

（注 1）「上司にしてはいけないこと」（『未来企業』 p203-p204）

（注 2）「マネージャーの 5 つの仕事 (OOMMD)」（『マネジメント』中、p26-p27）  
「マネジメント・レター」（『マネジメント』中、p82-p83）